



**平成 23 年度総会終わる。**

5月12日土曜日〇名の出席で23年度の総会  
も終わり新年度がスタートしました。  
以下、各活動報告・予定・会計報告・予算を  
簡単に列記しました。

**事業部報告**

**★常滑焼急須の講習会**

8月27・28日の2日に亘り横浜市陶芸セン  
ターと会員工房にて部品作りと、削りの作業  
を行いました。参加者は12名で窯場見学会下  
見費用と参加費でまかないました。

**★33回作品展**

1月11日から16日の6日間に亘り、2015  
名の入場者を集めました。出品者は52名、養  
護・支援学校は7校。出品数は養護・支援学  
校・特設コーナー陶管を含め570点でした。  
会期中に、美濃の窯場見学会の際に瀧口先生  
のところへ絵付けした作品を渡すことが出来  
ました。

第 151 号  
平成 24 年  
7 月 1 日 発行

**★美術館見学会**

2月4日に、出光美術館で行われている常  
滑焼の『山田常山』展に、18名の参加で数々  
の急須を鑑賞してきました。

**【予定】**

**★窯場見学会**

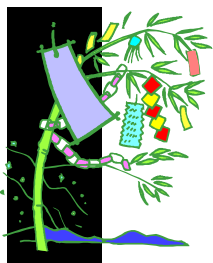
鹿児島島の薩摩焼きと焼酎の旅です。  
詳細は3頁を参照してください

**★作品展**

25年度1月初旬から中旬（6日間の予定）  
特設コーナー作品は（どんぶり）25cm以内？

**★人事**

部長が太田氏に変わりました？  
新部員が窪田さん・徳植さんです。



**専修部報告**

**★秋季焼成会**

9月4日の受付から25日の受け渡しまで8  
日間に亘り述べ31名の会員により活動しま  
した。参加者12名、作品数66点でした。

**【予定】**

**★黄瀬戸講習会**

33回作品展で人気投票をされた井上明氏の  
黄瀬戸釉4種類をお持ちいただいたの講習  
会です。詳細は5頁です。

**★人事**

新入会員の田村さんが入部されました。

**広報部報告**

**★広報誌4回発行**

147号から150号まで

**★もったいないコーナー各誌に掲載し、会員  
に代わって引渡し等の手配をしました。山中  
氏の遺品の道具の作品展示会での引渡しなど。**

**【予定】**

**★4誌発行**

**★もったいないコーナーの仲介**

**総務部・会計部**

両部ともに、目立った活動はありませんが  
なくてはならない存在です。いつもありがと  
うございます。

『薩摩焼』を訪ねる旅のご案内

今年度は『火と土と伝統に生きる薩摩焼』を見学することにしました。

薩摩焼は黒薩摩・白薩摩がありますが、その伝統を守り伝えるとともに、それぞれの作家が自らの作風で『薩摩焼』に取り組んでいます。

今回はその陶芸家達の色々な『薩摩焼』に出会える旅です。

・訪問予定の陶芸家紹介

① 沈壽官

薩摩焼の技法を継承し白薩摩と色絵金彩をリードし、長い伝統を受け継いでいます。

ここでは作陶すべての工程（ろくろ成形・彫り・絵付け等）を見学できます。下見では15代の壽官にお会いしましたが、本番時には体調が良ければ14代にもお会いできるかもしれません。

② 川原 史郎 「龍門司焼」代表

三百年の伝統と、先人達の心を大切に粘土をはじめ釉薬を地元で採取しています。下見時は大きな登り窯で焼成中でした。ここでは、ろくろ成形から土、釉薬作りの工程も見学できます。

③ 竹之内 彬裕 「宋帥窯」

「陶作りは推敲の旅です。一字、一行詩まで推敲は続きます。」と、日々取り組んでいます。陶箱や和食器に、ホウズキやムベの抜き絵

作品がたくさんありました。本番時には陶箱作りや抜き絵の実演もやっていただく予定です。

④ 西田 秋雄 絵付け工房「秋月窯」

従来の形式にとどまらないデザインで彩色を施し、『作品は一つでもお客様の要望に合わせて、作品を受け取る側の想いに寄り添うような作品作り』をモットーにされています。

⑤ 有山 禮石 「指宿 長太郎窯」

「人と同じことはしない。強い意志で独創的に」と、オリジナルの釉薬を使い他より高めの温度で焼き、心に残る自然の風景を見事に作品に投影しています。

焼き物というより、まるでキャンバス。自然の躍動感と生命感のある作品です。

⑥ 内山 義明 「溪山窯」南州工房

コンピュータ関係の会社を脱サラし、「私は成形、窯焚き、絵付けの作業を一人でいい、より入念な仕上げを心がけており、確かな作品を直接顧客の許に届けることを製作理念としている。」との思いで窯を開きました。

器の中の細かな文様はみごとでした。当日は絵付け、彫り等の様子も見学できます。

⑦ 廣田 実雪 「薩摩金襴手絵師」

工房にはパリに出展した作品やロンドンに寄贈した大皿の写真が飾られていました。金盛りをふんだんに使った細かい作業のお話では、想像もしていない繊細な作業に何度も驚きのため息をつきながら伺いました。金襴の素晴らしい作品を見られます。

・見学予定

○ 沈家伝世 收藏家

慶長3年（1598）初代沈当吉が朝鮮国南原より薩摩に渡来して以来、今日までに伝来した作品が展示されています。

・次はお楽しみな「昼食」と「宿」

26日（金）「豚珍館」黒豚料理専門店

黒豚トンカツが、とてもおいしいです。

27日（土）奄美の里「花ん華」

お庭のきれいなお店です。

【宿】指宿砂むし温泉 指宿シーサイドホテル

砂蒸しもでき、鹿児島湾が目の前に広がる部屋から朝日が眺められるホテルです。

【実施日】 10月26日（金）～27日（土）

【集合】 7時（羽田空港）

【出発】 8時5分

【解散】 21時（羽田空港）

【費用】 5万7千円

交通は、羽田から鹿児島空港まで飛行機を利用し、現地は観光バスで移動します。

色々な『薩摩焼』に出会える旅にしたいと欲張った計画内容です。鹿児島は景色も食べ物もお酒もとても素晴らしいところです。

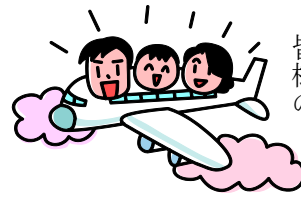
皆様の

参加をお待ちしています。

**参加希望者は、7月31日**

**(火) 必着で**

ハガキに次の事項を記入し  
申し込んで下さい。



薩摩焼窯場見学会参加

- ① 氏名・年令 (搭乗者名簿に必要)
- ② 住所・電話番号
- ③ その他

・申し込み先

徳植 美和恵 まで

- ・参加希望者の皆様には後日(8月下旬まで)に詳しい時程や内容をお知らせいたします。
- ・募集人員は35名(先着順)です。
- ・今回は飛行機を利用するためいつもより早く募集のお知らせをいたしました。

(文責 清水あやこ)

### 「第34回 作品展」のお知らせ

皆様ご存知のように、市民ギャラリーの移転計画があり、交通の便の良い関内で行われるのも今年度が最後となりました。

この会場での最後の作品展を飾るためにも、会員皆様方のすばらしい作品が、たくさん出展されることを期待しております。

【会期】平成25年1月10日(木)～15日(火)

【会場】横浜市民ギャラリー 1階展示場

【特設コーナー】「どんぶり」25cm以下

とりあえず、会期日程が決まりましたのでお知らせいたします。

事業部



2012年作品展・貝森俊司さん作品

### 「ぐい飲み会」を主催して

大日方 毅

今年の「ぐい飲み会」は、例年より少し早い時期ですが、5月26日(土曜日)、JR港南台駅近くにある「しもの」という、素材を活かした和食店に11名が集まり、ゆつたりとした雰囲気の中で開催されました。持ち寄った自作のぐい飲みに関する一言エピソードについては、各人のぐい飲みに対する想いや、思いがけない技法のお披露目などがあり、今年も多いに盛り上がり、有意義な時間を過ごすことが出来ました。

さて、この「ぐい飲み会」は、自作のぐい飲みを肴に作陶への想いを語り合う、会員同士での自由な交流の場として自主的に行われてきました。

私も今回で幹事3回目。どなたか次回の幹事をなさって下さる方いらっしゃいますか？是非ともよろしくお願ひします。



2012年作品展・江口鉦三郎さん作品

専修部からのお知らせ

黄瀬戸作陶会と秋期焼成会

友の会恒例の秋期焼成会は左記の日程で行われますが、今度の焼成会は非常に楽しみにして下さい。と言いますのは、お正月の作品展で専修部員である井上明氏の黄瀬戸作品の中で、好みの釉薬を入場者によるアンケート調査をした結果、

井上氏本人も思ってもいなかった結果に大変興味を持ったそうです。

私もこれが一番と思つたものに一票投じましたが、思ったほど多くなく、人の好みの多様さを感じた次第です。

長々と書きましたが、な・何と！秋期焼成会で、自分の好みの黄瀬戸釉が使用できます。



2012 年作品展より 井上明さんの作品より

四種類の黄瀬戸釉とテストピースを持参して下さいますので、自分の作品を好みの黄瀬戸釉を掛けて焼成しようではありませんか。どうぞご期待ください。専修部伝統の釉薬（織部・織部用透明・白萩・黄瀬戸・土灰・灰天目・白マツト・ルリ・透明・白化粧・青磁水裂釉）も有りますので、多数の方の参加をお待ちしております。

また、専修部では今回の秋期焼成会の前に技能文化会館の一室を一日借りて、黄瀬戸作陶会を企画いたしました。

黄瀬戸作陶会

会場 横浜市技能文化会館 602号室

JR 関内駅南口下車 徒歩3分

日時 8月21日(火) 9時～17時

参加費用 黄瀬戸用にブレンドした粘土3kg

と場所使用料とで一人千円、

募集人員 会場の都合により、先着15名とい

たします。

申し込み 葉書で本橋まで（住所録参照）

締切り日 7月29日(日)です。

作陶道具 各自持参してください。

秋期焼成会

会場 右記黄瀬戸作陶会会場と同じ

作品受付 9月2日(日) 13時集合

釉薬掛け 9月23日(日) 9時集合  
引き渡し 9月30日(日) 9時集合  
(集合時間に注意・厳守)

焼成代は100g180円(素焼き+本焼き)  
素焼き完了作品は100g120円  
白化粧掛け作品は100g150円

専修部 本橋



焼成窯を持ち、日夜作陶に勤しんでいる会員の方をお訪ねし、その作業場や作品造りへの思いなど皆様にご紹介していきたいと思いでこの企画をはじめました。

この紹介を通じ、会員相互の交流が行われ、地域ごとの拠点に発展していくことを期待しています。

トップバッターは、作品展でいつも可愛い  
いお人形やお地藏さんを作っている会長の松  
崎さんから訪問することにしました。

【松崎さんとの談話です】

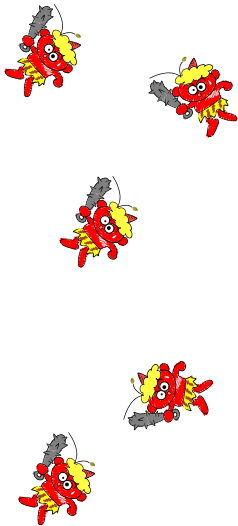
①陶芸をはじめのきっかけは？

・勤めていた養護学校で陶芸に出会い、技  
術を深めたいと陶芸センターに通った。

②長く続けられたのは？

・納得できる作品が、なかなか作れないか  
らかな。

松崎紀一さんと電気窯



③陶房はいつ、どの様なきっかけで？

・九年前、作業場が欲しくて引っ越した。  
義父が物置を改造してくれた。

④作陶はいつおこなっていますか？

・家庭優先で土日を当てている。  
本当は毎日やりたいが、仕事もあるのでな  
かなか思うように出来ません。

⑤お人形を作るきっかけは？

・会員の人形に触発され作りたくなった。

⑥作品造りへの思いやこだわりは？

・基本的には癒されたいのかも。最近鬼  
も作りますが、どうしても自画像として吞

んだくれの鬼になります。これから人形も  
野仏も完成させたい。

⑦個展などの活動は？

・金沢文庫芸術祭に七年続けて個展を開い  
ています。十回まで続けることと、その後  
本格的な個展を開くことが夢です。できる  
かな？今は、作りたい気持ちばかりで時間  
が無いのがとても辛い。

○松崎さんの陶房は、シーサイドラインの野  
島公園駅から五分ほどの所にあり、すぐ近く  
の岸壁からは釣り船が出港しています。

陶房は自宅の庭の一面に義父手造りによる  
立派なもので、作品は電気窯で焼成していま  
す。作品棚には  
狛犬やお人形が  
たくさん置いて  
ありました。

内部は三、四  
人が作業できそ  
うな広さがあり  
ますが、談話の  
中にもあるよう  
に「今は時間が  
無いのが辛い」  
との事で、作陶  
に時間をかけた  
いそうです。

三年後の個展



2012 年作品展 島崎紀一さん作品

終了後にゆとりができたなら狛犬作りが教われるかもしれない。  
みなさん、期待しましょうね。



松崎さんの工房

【お願い】  
『うちの作業場を紹介してもいいよ』という方がいましたら、お知り合いの役員に連絡してください。  
取材させていただき皆様に紹介していきます。  
と思っています。

(文責) 鍋島弘義

箱根彫刻の森美術館の一角にピカソの陶器を集めて展示してあるところが、私はこちらが大好きです。そのピカソ館での一節を転記します。

ピカソ・セラミック技法

ピカソは、職人頭のアガが投げ出したばかりの花  
瓶を手にとつて、それを  
手でこね始めた。  
彼はまずその首の部分を  
ひねって胴部をゴム風船  
のように押すと手ごたえ  
があるようにし、次に2・3  
度器用にひねったり  
押し込んだりして、この  
実用品を1羽の  
軽やか弱い、そして生  
命に息づくような鳩に  
変形してしまつた。

「ご覧のとおり」と彼は言うのだった。  
「鳩を作るには、まず首をひねらなければならぬのだよ。」  
それはきわどい手法であつた。それというのも、もし押し方が悪ければ、こね丸めて最初からやり直すより手はなかつたのだが、ピカソの手の加え方は非常に確実で、やりなおすというような事態はほとんど起こらなかった。彼は親指でしっかりと、だがそつと押し凹ま



ピカソ 鳥



ピカソ 蛇

し、それも2・3度触れただけで、一ヤード以上の高さの花瓶を最も美しい女性の姿に変えてしまうことができた。  
彼は、粘土や釉薬や火を用いる場合に自分がどういふことができるのかを異常な早さで覚えた。  
彼はいつでも経験深い職人の助言に耳を傾け、そしていつでも自分なりの方法で仕事をするのであつた



ピカソ 二つの顔 花瓶

もったいないコーナー

シンポのマイコン電気窯、DAM-03CC  
外形寸法・785×700×815、  
炉内寸法・300×300×320、  
定格・単相200V・15アンペア  
還元焼成用バーナー付属  
寺尾 亮さんがお使いになつていた  
ものです。会員の方がお使いくださ  
る方は奥様までご連絡ください。  
広報部

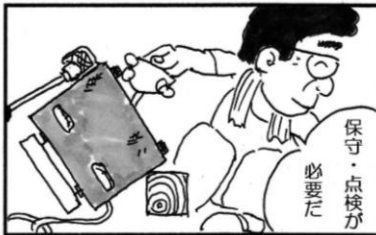
# 陶和会 2012



## 陶陶さん

第 73 号

あかほし



窯業焼成中間の作品展(窯業焼成作品以外もあります。)

～ サンハート アートギャラリー ～

(横浜戸畑区民文化センター)

(相模鉄道線「二俣川駅」直結の二俣川ライブ5階)

2012年7月24日(火)～7月29日(日)

初日24日(火)は14:00 開場です

10:00～19:00 入場無料

出品者

夏辺サトル 鈴木和子 石川光子  
石川 誠一 本橋昭彦 島本登俊 高橋光男  
主催 陶和会 (電:090-2747-3668 (高橋 光男))

### 編集後記

今号は短期決戦型、窯場見学会下見の原稿を待ってのスタートでした。届いたのが5日。印刷屋へ持参したのが10日とめまぐるしく展開しました。で多少の(いや結構沢山)不備があるかもしれません、お許しいただきたく……

でも今思えば、突然のパソコン編集を迫られ信岡さんという助っ人が現れて早4年。広報誌も136号から数えて16号目経費も2割弱に抑えられて会としてはハッピー？私もパソコン使えるようになってハッピー？ちよつと納得できないところもありますが、これが人生？

話し違いますが只今子育て真っ最中、いや子どもではなく犬、2ヶ月を過ぎたばかりの子犬です。おろおろと振り回されてストレスたまっています。どなたか犬育ての達人のお話伺いたいものです。

小松

小松さんが子犬育て真っ最中なら、私は16歳老犬介護の真っ最中です。犬のふつとした様子に、90歳で亡くなった母を懐かしく思い出したりして……母があの世で「いやだわ」犬と一緒にしないでよ」と言ってるようですが……

信岡

ホームページもチェック!!

横浜陶芸友の会

検索

<http://www20.atpages.jp/tomonokai/>

横浜陶芸友の会だより  
第151号

(平成22年7月11日発行)

発行人 横浜陶芸友の会

会長 松崎 紀一

編集責任者 広報部長 吉良謙

